四国版

迎春

2016年元日

心新たにスタート

日本の農業は、昔から自然の影響を受けながら、粛々と営まれてきた。大きな災害に見舞われた場合には、それぞれの農家の自助努力だけでは、とても難しいのが現状だ。NOSAIはそうした被害農家の経営再建の一助となっている。共済に加入していたおかげで、甚大な被害を受けたにもかかわらず、共済金の支払いを受けて、力強く再建し、新しい希望を胸に新年を迎えた姿を紹介する。

河川が氾濫して水没 農機具は大切な相棒

三野　喜清さん　香川県高松市

水稲

「災害に遭って初めて補償の大切さを知った」と三野さん。腰の位置まで水に漬かったという

【香川支局】「お米を楽しみに待ってくれている人がいるから、米作りはやめられない。今年も健康に留意し、元気に作付けたい」と抱負を話す高松市東植田町の三野喜清さん(67)。

勤めながら水稲40ㄱを作付ける兼業農家の三野さん。短時間で作業をこなす農機具は、無くてはならない大切な相棒だ。

トラクターやコンバイン、乾燥機など、米作りに必要な農機具を一通りそろえ、全て農機具共済に加入する。

「補償の大切さを思い知ったから」。2004年10月20日、台風豪雨で住宅の横を流れる川が氾濫し、家屋が床上浸水した。納屋に格納していた農機具は全て使い物にならなくなった。

「浸水は生まれて初めての経験。担当職員がすぐさま確認にきてくれ、早々に共済金が支払われた」と感謝する。とはいえ、農機具共済に加入していたのはトラクターとコンバインだけ。経営には痛手だった。

全農機具を加入

7年後の11年、2回目の浸水被害に遭う羽目に。前回の浸水被害以降、全ての農機具を共済に加入していたことから「助かった。共済金が無ければ、稲作は続けられたかどうか」と振り返る。

中山間地に位置する東植田町。夜温が低く、良質の米産地として知られる。三野さんはかんがい用に掘った井戸の冷水を利用し、良質な米生産に努力する。

イノシシやサルなど獣害被害が懸念される中、「今年は大きな災害が無く、無事に収穫できてほしい」と話す。（東野悦子）

風雨で換気施設停止 植え替えし初収穫へ

野瀬　好章さん　高知県香南市

ハウスミカン

「植え替えた樹が枯れたり苦労もあった」とこれまでを振り返る野瀬さん

【高知支局】「植え替え後、初めて加温し、どれだけ収穫できるか試す予定です」と話すのは、香南市香我美町で温州ミカンを栽培する野瀬好章さん(57)。

万が一のために

「全国的に、異常気象による被害ニュースを耳にする機会が増えたように感じている」という野瀬さんは、重油価格高騰などで栽培コストが上がり、経営が厳しくなる中、「掛金負担がしんどいと思うこともありましたが、大きな事故に遭い、あらためて果樹共済の大切さを実感しました」と話す。

野瀬さんはハウス・露地を合わせて142ㄱでミカンを栽培。燃料費などのコストはかかるものの、販売単価が高いハウスミカン栽培は経営の大きな柱だ。

そのハウスミカンに被害を受けたのは、2014年5月12日。深夜から翌未明にかけての風雨でハウスの電気配線がショートしたため、換気施設が停止した。ハウス全体が高温での蒸し込み状態となり、樹(き)は茶色に変色。2カ月後に予定していた収穫を断念し、樹の植え替えを余儀なくされた。

「目の前が真っ暗になった」という野瀬さんだが、栽培再開に向けてコツコツと作業し、全ての樹を撤去後、露地栽培していた130本を移植。1年をかけて栽培サイクルをハウス栽培に合わせ、初収穫が期待できるまでになった。

ハウスの加温設備をボイラーからヒートポンプに更新するなど、コスト低減にも力を入れている野瀬さん。「今年の収穫はまだ少ないかもしれないが、来年は本格的な収穫ができるように頑張っていきたい」と話してくれた。（澤田浩一）

幾度も困難に遭遇も継続への意欲衰えず

浦崎　達司さん　徳島県徳島市

ハウスミカン

ハウスミカンの手入れをする浦崎さん

【徳島支局】「おいしいミカンを、みなさんに食べていただけるのがやりがいです」と話すのは、徳島市多家良町の浦崎達司さん(67)。ビニールハウスで温州ミカンを28ㄱ栽培している。

父親の後を継いで就農した浦崎さん。これまでに、さまざまな事柄を経験したという。中でも印象深いのは高校卒業後の農業実習で、静岡県やアメリカで数年間勉強に励んだことは、「もっと農業について学びたいという強い思いがあったので、たいへん良い経験になりました」と話す。

一方、自然災害の影響などが避けられない農業の難しさにも直面した。昭和40年代のミカン相場の大暴落や、イノシシやシカによる獣害で多数の樹(き)が傷んだことなど、幾度も困難に遭遇。

特に、露地栽培からハウス栽培に切り替えた矢先の台風被害は忘れられないという。ビニールや本体はもちろんのこと、ハウス内に降りこんだ雨で、ミカンにも大きな被害を受けた。

春の突風で破損

「破けたビニールから一気に雨が降りこみ、ミカンが裂け、売り物にならなくなりました。また最近では春の激しい突風で、ビニールが破れることがあります。被覆し直すのに(園芸施設共済の)共済金が出るのは助かります」と浦崎さん。

所属するハウスみかん部会は、1996年には50人ほど部員がいたが、現在は十数人。後継者不足、共同選別の再編、農業情勢の変化など、経営を続けていく上で困難や不安は絶えないという。

しかし、「ミカンの樹は人間と同じで頑張りすぎたら疲れる。たくさん取ろうとし過ぎるといいものができない。そこのバランスが難しいですが、これからも頑張っていきたい」と笑顔で話してくれた。（関本剛士）

洪水で園芸施設全壊 対策重ね強い経営に

川本　英男さん　愛媛県大洲市

洪水の水位を指さす英男さん

イチゴ

【愛媛支局】今年で11年目を迎える川本いちご園は、「完熟したイチゴのおいしさが味わえる」と評判の人気スポット。同園がある大洲市菅田地区は、肱川流域で、大雨が続くと増水しやすく、過去に何度も浸水被害に見舞われている。

同園も例外ではなく、開園前の2004年、05年、そして、11年に洪水の被害を受けた。「04年の台風16号では、ビニールハウス9棟が全壊し、収穫寸前のキュウリが全滅という甚大な損失が出て、『農業は無理かも』という思いがよぎりました」と話す川本英男さん(45)。

内作物にも加入

友人や地域の人たちの多大なる協力を得て、再び農業で歩んでいこうと鉄骨ハウス・イチゴ高設栽培を導入。園芸施設共済では、施設内農作物にも追加加入して備えた。順調にイチゴ苗定植準備終了した矢先、2度目の洪水に見舞われる。

「この時は前年と変わらない水位で押し寄せ、落ちたり流れたりした苗を、大事に大事にすくって、何とかやらんといかんと必死でした。新築資材の補償、そして共済金の支払いが本当に心強く、経済的後押しになり、さらに、友人や周りの方の懸命の手助けが前に進む励みになりました」と英男さんは振り返る。

水の被害を受けるたびに対策を増やす。共済への加入は安心保障として当然と考える。加えて、資材の強化、水防御のノウハウの確立などを進めている。

「『紅い雫(しずく)』の本数が2倍に増えました。完熟のイチゴを多くの方に、ぜひ味わっていただきたいですね」と妻の由紀美さん(44)。シーズン到来に、期待を膨らませている。（高石恵子）

イチゴの手入れをする川本さん夫妻

まっすぐNOSAI

徳島支局
〒770-8054
徳島市山城西2丁目74番地
TEL088(622)7731

香川支局
〒761-8083
高松市三名町東原5-6
TEL087(888)2121

愛媛支局
〒790-0002
松山市二番町4-4-2
TEL089(941)8135

高知支局
〒780-0861
高知市升形10-5
TEL088(822)4346